

重点取組分野	令和 4 年度		総括	重点取組分野	令和 5 年度		総括	重点取組分野	令和 6 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①単元や一単位時間で育成を目指す資質・能力を明確にした授業づくりをする。学習計画をたてたり、本時のめあての確認と振り返りの時間を取り入れたりし、子どもが主体的に学ぶことができるようにする。 ②自分の考えをもち、伝え合う活動を取り入れ、考えを深めたり広めたりできるようにする。 ③生活科・総合的な学習の時間を核として、地域の人・もの・ことに触れる単元を計画し、主体的に考えることができるような学習課題を設定する。	①子どもたちが学習の見直しをもって学ぶことができるようになってきた。様々な教科で継続していき、自分の考えをもって交流を行うことで、意欲的に考えを伝えることができるようになってきた。伝えるだけになってしまうところがあったので、考えを深め広げていく深い学びとなるようにしていきたい。 ②児童の興味関心に応じた「材」と向き合い学習を行った。より地域にある材を職員全体で共有していくため、今後は情報の蓄積・リスト化を進める。スムーズな単元の立ち上げや、新たに取組む単元づくりに繋げたい。	B	生きてはたらく知	①単元や一単位時間で育成を目指す資質・能力を明確にした授業づくりをする。学習計画をたてたり、本時のめあての確認と振り返りの時間を取り入れたりし、子どもが主体的に学ぶことができるようにする。 ②伝え合ったり話し合ったりすることをねらいを確かめて工夫し考えを深めたり広めたりできるようにする。 ③生活科・総合的な学習の時間を核として、地域の人・もの・ことに触れる単元を計画し、主体的に考えることができるような学習課題を設定する。			生きてはたらく知	c1		
豊かな心	①子どもたちが自他のよさを認めながら、安心して思いや考えを伝え合えるような授業づくりを行う。 ②学級や学年の活動、たてわり活動や兄弟学年の関わりを年間を通し計画的に行い、活動を振り返って次の活動にいかすなど、他者の思いに寄り添う心情を育む取組を充実させる。 ③年に1回以上人権研修を行い、職員の人権意識を高める。また、人の話をよく聞く態度を育て、自他の違いを認識し、相手のよさに気付いて尊重する気持ちを育てるような取組を行う。	①伝え合う活動の中で、友達の良い考えを感じられるようになってきた。 ②全校遠足が中止になったので、たてわりグループの交流が滞ってしまった。たてわり活動の計画が年度初めには立てておくようにする。常時活動として充実できるように、パティ学年の活動を充実させたい。 ③人権研修として「優位感覚」についての研修を行った。人それぞれの感覚の優位性の違いについて知り、児童理解・児童支援に生かすことができた。人権週間では、学級ごとに重点取組を決め、取組んだことで児童の人権意識を育てることができた。	B	豊かな心	①子どもたちが自他のよさを認めながら、安心して思いや考えを伝え合えるような授業づくりを行う。 ②学級や学年、たてわり活動を年間を通して計画的に行い、活動を振り返って次の活動にいかすなど、他者の思いに寄り添う心情を育む取組を充実させる。たてわり活動は常時活動として充実できるように、パティ学年での清掃活動を行う。 ③年に1回以上人権研修を行い、職員の人権意識を高める。また、人の話をよく聞く態度を育て、自他の違いを認識し、相手のよさに気付いて尊重する気持ちを育てるような取組を行う。			豊かな心	c2		
健やかな体	①『安全な学校生活』を学校保健委員会のテーマとし、けがなく安全に過ごせる学校づくりに継続して取り組み課題の解決を図る。 ②食育目標、保健目標などを生活目標と関連付けながら設定し、放送など様々な方法で知らせる取組を組む。 ③短縄チャレンジを継続して取り組むことによる体力向上を目指す。	①学校保健委員会を中心に、廊下での事故防止について年間を通した活動を行ってきたが、まだ、廊下を正しく歩けていないと答えた児童が15%程いる。 ②毎月の朝会時に、全校放送で各目標を伝えることで、学校全体でめあてに向けて取り組む意識を高めることができた。広報委員会によるポスター作成も行った。 ③短縄チャレンジカードの取組が年度の後半になってしまった。2月に行った長縄集会に向けて各クラスが、中休みなどに熱心に取組む体力向上を目指すことができた。	B	健やかな体	①『安全な学校生活』を学校保健委員会のテーマとし、けがなく安全に過ごせる学校づくりに継続して取り組み課題の解決を図る。 ②食育目標、保健目標などを生活目標と関連付けながら設定し、放送など様々な方法で知らせる取組を組む。 ③短縄チャレンジを年間を通して取り組むことによる体力向上を目指す。			健やかな体	c3		
地域連携	①コロナ禍でも、子どもたちが興味関心をもてそうな材を見つけ、地域の人と繰り返し交流をもてるような「総合的な学習の時間」「生活科」の単元、年間計画を立てて取り組む。 ②行事だけでなく教科等でも「梅」や「梅林小学校の特色」を関連づけられる活動を確認し、年間計画を立てて実践していく。 ③スタートカリキュラムの見直しを行うと共に、学びや経験がつながる幼保小の交流を計画して実行する。	①地域にある材を職員全体で共有していかすため、情報の交流、蓄積・リスト化を行い、年度初めの単元立ち上げを進める。 ②総合的な学習の時間で梅や梅林小を材にした活動を行った学級もあった。行事や教科でも関わりをもった。 ③コロナの影響で幼保小の関わりは2月になってやっと実施することができた。情勢を見て今後のカリキュラムの見直しと計画を立てていきたい。	B	地域連携	①地域の人と繰り返し交流をもてるような「総合的な学習の時間」「生活科」の単元、年間計画を立てて取り組む。 ②行事だけでなく教科等でも「梅」や「梅林小学校の特色」を関連づけられる活動を確認し、年間計画を立てて実践していく。 ③スタートカリキュラムの見直しを行うと共に、学びや経験がつながる幼保小の交流を計画して実行する。			地域連携	c4		
児童生徒指導	①誰にとっても安心、安全な学校生活にするために、「梅林スタンダード」で約束を明確化したり、ユニバーサルデザインを学級経営や授業づくりに取り入れたりする。 ②児童会活動を中心にあいさつ運動など、全校で継続的に取り組むことであいさつの習慣化を目指す。	①「梅林スタンダード」は児童の実態に応じてその都度確認することで約束の明確化を目指した。毎学期や必要時に教師や児童の確認が必要。部会の初めにコミニクを行い、児童の間関係作り仲間作りに役立つ活動を共有した。 ②あいさつ運動では、学年で声かけや取組を行ったことが成果につながった。全学年で取組を行う。	B	児童生徒指導	①誰にとっても安心、安全な学校生活にするために、「梅林スタンダード」で約束を明確化したり、ユニバーサルデザインを学級経営や授業づくりに取り入れたりする。 ②児童会活動を中心にあいさつ運動など、全校で継続的に取り組むことであいさつの習慣化を目指す。			児童生徒指導	c5		
特別支援教育	①支援が必要な児童を職員全体で把握し、学校全体で支援を行う。 ②教室や日頃の対応でできる特別支援教育のスキルを校内の委員会で学び活用できるようにする。 ③ケース会議を特別支援教育コーディネーターを中心に。校内での支援の充実を目指したい。	①誰でも一貫した指導や対応できるように情報共有した。 ②研修では児童理解の深め方や個別の指導計画の立て方を学んだ。校内委員会で効果的な支援について共有を行っている。 ③児童の背景や行動等について分析、対応について話し合った。経過の様子も確認、対応をさらに練ることができた。	B	特別支援教育	①支援が必要な児童を職員全体で把握し、学校全体で支援を行う。 ②教室や日頃の対応でできる特別支援教育のスキルを校内の委員会で学び活用できるようにする。 ③ケース会議を特別支援教育コーディネーターを中心に。校内での支援の充実を目指したい。			特別支援教育	c6		
いじめへの対応	①月1回以上いじめ防止対策委員会を行い、未然防止、早期発見・対応を迅速に行う。 ②年2回のいじめ防止研修を実施し、全職員のいじめに対するアンテナを高くすると共に、職員会議等で職員全員で把握できるように情報共有を行う。 ③児童アンケートを定期的に行い、児童の困り感等を見つける。学年で共有し、対応していく。	①早期発見・対応の為に、学年を中心としたいじめ防止対策委員会を率先に行う。 ②毎月の研修を通して、未然防止を目的として行った。 ③定期的なアンケート実施から児童と話をしたり、困っていること等を話すことができた。家庭との連携もとることができた。	B	いじめへの対応	①月1回以上いじめ防止対策委員会を行い、未然防止、早期発見・対応を迅速に行う。 ②年2回のいじめ防止研修を実施し、全職員のいじめに対するアンテナを高くすると共に、職員会議等で職員全員で把握できるように情報共有を行う。 ③児童アンケートを定期的に行い、児童の困り感等を見つける。学年で共有し、対応していく。			いじめへの対応	c7		
人材育成・組織運営(働き方)	①メンター研修では、個人が目標を設定し、授業実践や研修での振り返りを通して、授業力や学級経営力を磨く。研修内容を発信していく。 ②放課後の会議や時間の使い方を見直し、研修や研鑽に努める時間を確保する。	①外部講師を招いて研修を行った。日々の授業や学級の悩みをお互いに相談したが、解決しきれない問題もあった。 ②打ち合わせやミララムなどを活用し、会議時間の短縮を図った。必要な研修や学年研などの時間は確保できたと思う。企画・職員会議の資料をあらかじめドライブにあげて目を通しておくよう試みたが、定着していない。定着するよう、リマインドをしっかりと行っていきたい。	B	人材育成・組織運営(働き方)	①メンター研修では、個人が目標を設定し、授業実践や研修での振り返りを通して、授業力や学級経営力を磨く。研修内容を発信していく。 ②放課後の会議や時間の使い方を見直し、研修や研鑽に努める時間を確保する。			人材育成・組織運営(働き方)	c8		
ブロック内評価後の気づき	少人数ではあるが、小中ブロックの教員がお互いの授業の様子を見合う機会をもつことができた。教務主任会では、「9年間育てる子ども像」の見直しを行った。各校、力を入れている「あいさつ」は継続し、友達だけでなく「自分も大切にできる子ども」や、日常生活や授業で自分の考えを「伝え合うことができる子ども」を目指していくことが決まった。各校の行事の確認も行われ、コロナ対策や行事がどのように行われているのか情報交換をすることができ、大変有意義な時間となった。		ブロック内評価後の気づき				ブロック内評価後の気づき				
学校関係者評価	子どもたちがあいさつをしてくれたり、話し合う活動に慣れていたりという様子がうかがえ、小学校になっての積み重ねや育ちを感じる。これからは自分の考えや思いを言える子どもになってほしい。いじめについては、学校が取り組んでいることを引き続き知らせていくとよい。人材育成、働き方の面で教職員の勤務時間や負担が過多となっている状況がある。熱心に教材研究をしてきているが、教師がゆとりをもつことは子どもにとっても大切なことである。子どもも一人一人個性があり、学年によっても違う。保護者、地域ができることを担い、連携していくことが大切である。		学校関係者評価				学校関係者評価				
中期取組目標振り返り	学校全体として「主体的に考える子」「伝え合う子」「受け入れる子」の育成を目指し、教育活動に取り組んだ。本年度は、発達段階に応じた学習計画を児童が立てることに取組むことにより主体的に学ぶことができるようになってきた。振り返りや伝え合う活動を充実させながら取組を継続したい。児童同士が関わり合う活動や地域と連携した教育活動は引き続き積極的に計画していく。あいさつができるようになるよう、学年目標に組み込むなど全職員で声かけや児童会活動などとして取り組むことができた。より一層児童が自信をもって自分を表現できるように保護者・地域と連携していく。		中期取組目標振り返り				中期取組目標振り返り				